

## 滋賀県立高等専門学校構想推進本部会議（第1回）議事概要

令和5年2月2日開催(11:00～12:00)

出席者：

三日月知事、廣川公立大学法人滋賀県立大学理事長、栢木野洲市長  
学識経験者（塩瀬 隆之 氏、八尾 健 氏、渡辺 圭子 氏）

三日月知事（本部長）：

- ・琵琶湖を中心にお預かりし、日本を代表するモノづくり県である滋賀県において、県立で高専をつくるという挑戦をすることになった。場所は野洲市に決め、今後、具体的な調整や検討を加速させる。
- ・この高専に込める思いを3つ申し上げる。1つ目は、高専が養う確かな技術を核として、高専を拠点に好循環を作っていきたい。2つ目は、確かな技術を中心に、高専と色々な機関が連携して「共創」を行っていきたい。3つ目は、確かな技術を基礎として、様々な「挑戦」をしていける教育拠点、研究拠点を作っていきたい。この「循環」と「共創」と「挑戦」の3つを滋賀で新たに作る高専から行っていけるような取り組みを試行し、全ての人と地球の将来のために様々な課題克服に向けた取り組みに資する、そういう人材を養成していければと考えている。
- ・その基礎として、世界に開かれ、ダイバーシティをはじめとした人権を尊重する、ジェンダーの視点も盛り込んだ教育機関にすることが必須と考えている。今後、2028年の設置に向け、諸準備を進める。まず基本構想1.0を作りそれをバージョンアップさせていく。
- ・先生方からの忌憚のない御意見を賜りながら考えていきたいと考えていますので、どうぞお力添え、ご協力をお願いしたい。

（報道機関 退室）

磯谷総合企画部管理監：

資料1、資料2に基づき説明

### <基本構想1.0（原案）について>

（意見交換の概要）

- ・（P8、9について）全国の高専の志願倍率は、情報関係は上がり、電気、機械関係は下がっているのが全体のトレンドであるが、それぞれ地元の産業構造、強みによっては異なるところもある。身に着けたスキルが合う企業がないと、卒業後に学生が県外に出てしまう事になる。現状の滋賀の強み、産業区分を見て、活躍の場があるかということも視点とし

- て必要。産業界との共創の一つにカリキュラムも含めることが必要と考える。
- ・カリキュラムを通じて地元産業を牽引・育成する面も必要。万一、業界の側が遅れているようであれば、学んだ内容がオーバースペックにならないように業界も育てる共創こそが、地域全体を牽引することになる。旧来の価値観に迎合するのではなく、産業界と一緒に発展し、成長していく必要がある。
  - ・(P2、3について) 好循環・共創・挑戦とおっしゃったが、好循環の一つは地元への貢献度だと思う。高専が注目されている理由の一つに大学への編入がある。旧帝国大学への進学もある程度想定される。県内に就職せずに県外に進学することが県立の学校としてうれしいことなのかどうか、県立としての線引きがどうかと思う。例えば秋田県立の国際教養大学はとても評価が高いが、育った人材が必ずしも地元に残って就職するとは限らない、活躍する場が身近に十分ではないということで、この人材育成の循環をどう考えるのかが重要。
  - ・現在掲げられる成長分野が情報系に偏っている感もある。産業界もブームに乗って人を集め、それが過ぎ去ってしまうと手のひらを返すように採用を手控えてしまうことがある。ブームに乗りすぎるのではなく中長期的な見通しをもって人材を育てていく必要がある。
  - ・「滋賀ならではの」は学校の個性として重要。滋賀には“資源循環”が身近で完結させることができるからこそその人材育成があると感じる。加工貿易の大前提である素材の調達リスクは年々増しており、日本の中にある資材を再生して再価値化できるようにしないと勝てなくなる時代をむかえると思う。再資源化技術に資する人材は大いに注目を集めると期待されている。
  - ・構想は全体的に丁寧に考え、緻密に積み上げられており、内容も具体的である。
  - ・高専の議論をするときには、大学と同じ高等教育機関であることを意識して議論していただければと思う。大学入試がなく、5年間で大学4年分の勉強までするのが高専の大きな特徴。連続的に学習し、実力は確かなものをもっている。実践に重点をおいており、優れた技術力のある人材が育つ素晴らしいシステムだと思う。
  - ・大事なのは構想をどう実現していくのかにあると思う。科目があつて、教えられる先生がいるか。学生がどこまで理解できるか、そのような具体的な問題で、いろいろ知恵を出していくことが高専の発展のために重要。
  - ・この構想を実現できたらすばらしい高専が出来ると感じている。この高専の特徴を基本構想に盛りこんでいるとは思いますが、県内大学の工学部とも編入学も含めうまく連携できればと思う。
  - ・特徴的な高専のためには、例えば大学との連携、授業とか、一緒に研究体験などをやってもいいかと思う。
  - ・高専が出来たらぜひ卒業生に来て欲しいという企業のニーズは高いが、どれぐらいの数、どの分野、ということまでの把握は不十分と考えている。

- ・意識の面では、中学3年生を対象とした調査では、自分のやりたい勉強ができる、個性が伸ばせる、就職実績が良いなどの意識が見受けられた。また、数字で把握しているわけではないが、親や親戚が高専出身者であるといった実体験をもとに希望する人も一定数いるように聞いている。
- ・高専誘致に向けて市内事業所や経済団体とも、協議を重ねており、大きな期待が寄せられている。
- ・企業からは、共同研究、出前授業、人材交流、教材提供など共創について非常に前向きな提案を聞いている。人材確保の面でも高専卒業生を熱望されている。
- ・高専を卒業された後、編入で大学に進学される学生が増えている中で、企業側の人材確保の努力ももっと求められることになる。
- ・前提条件をしっかりと皆で共有しつつ、丁寧に進めることが重要と考えている。たとえば土地の活用の仕方、寮の設置形態をどうするかなど。
- ・人材育成のみならず、技術者交流のハブもこの高専の機能の一つ。産業界との共創のあり方については、県内の産業分布もしっかり認識しながら、どういう人材が求められるのか、活躍してもらえるのかを考えながら準備を進めたい。
- ・県立大学の工学部、他の学部とも高専がいかに協力連携するのか、高専と大学が共存共栄して、滋賀県の魅力ある発展に貢献できればと熱を込めている。
- ・高等教育機関としての高専の認識不足はご指摘のとおり。一方、中学生からすると高校と並ぶ選択肢の中という認識であり、どういった特色をアピールするかということも重要。編入もあるし、高専を卒業すれば大学3回生の年齢でそれ以上の実力を得て卒業している。生徒本人、保護者、企業、それぞれに対し上手くアピールすることが大事。

三日月知事（本部長）：

- ・新たに作る滋賀の高専は、特徴も出しながら、産業界や地域の方々の期待にお応えできるように着実に検討、準備を重ねていきたい。
- ・産業界との共創では、委員がおっしゃったように、カリキュラム作りから関わっていただきながら、産業界の刷新やイノベーションに繋がり、学んだことがオーバースペックにならないような対応や、倍率だけにとらわれない作りが重要と感じた。
- ・情報通信技術を基盤にしつつ、「資源循環」などは滋賀県らしい特徴として打ち出せると感じた。
- ・高専の卒業生が県外に進学・就職することについてどう思うのかということについては、ずっと指摘されているが、滋賀の産業や大学は大事にしつつも、琵琶湖で育った若鮎は、むしろ世界の大海で大きくという大きな心で、人材育成に取り組んでいくことが肝要ではないかと思っている。
- ・実践に重きを置いた高等教育機関としての位置づけをしっかりと示すことと、教員の重要性については肝に銘じたい。

- 工学系の大学との連携は一つの特徴になり得ると思う。進学者や地元企業のもっと深掘したニーズの把握等が重要と感じた。
- 地元企業の熱望ぶりをご紹介いただいた。様々なご提案を整理しながら、産業界とのプラットフォームを作っていくことがこれからの課題であり、可能性だと思っているので、しっかり進めていきたい。